



深い青の部屋。歩く道は窓の外の風景に続く。一つひとつの、ゴミと呼ばれるそれは、人間の過ごした跡。

現代という今、巨大な廃棄物を吐き出しながら生きる私たちは、隠されるゴミと同様に、自分で死ぬ子供を生む社会の中で、物事に真剣になる心静かな時間を失う。出会う場所、一つの視点から世界はぐーんと開かれていく。

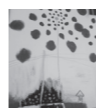
今日も人が生活して、たくさんゴミが出た。東京。都市と呼ばれる激商業の社会で、自然環境について考え、行動することは、どのように出来るだろう。人の社会で幸せに暮らす。その上、生命として、地球で他の生命と同じに生きて死ぬを目指すことは、出来るだろうか。私を含め、大半の都市生活者は、そのような視点を持ち得る生活環境にいない。なにしろ緑よりもコンクリートやアスファルトが身近だ。その中で生きるを懸命に追う毎日の意識は、蟻やカラスやタンポポと同じ軸に存在していない。そんな毎日と同時進行で、海にプラスチックの粒が浮かぶ。

Route 246

vol.3

a point

空缶・煙草・ガム・包装紙・つまようじ・馬券・電池・コンビニ袋・ワンカップ瓶・綿棒・靴下・ナット・ティッシュ・輪ゴム・布団・チラシ・ガラス片・コンドーム・注射器。ゴミには、その土地の人間が過ごした時間が映される。色々々色々々、本当に色々々な状況を人は生きている。東京でゴミを捨てることを、悪と捉えることなんて出来ない。今生きている人たちは、生まれてくる人たちに、どんな生きる世界を手渡せるか。時間がないことを分かって、世界規模で、自然と社会にガチで挑む大きな行動に生きる人。地域の集まりで若い人に、「あなたたちは素晴らしいのよ」と言ってお婆さんのように、人を生かす人。私は東京で生活し、例えば道脇に花を植えるようなことをしていきたい。

 勝亦かほり(かつまた・かおり) / 1985年東京都中野区生まれ。2004年、植物に埋まるゴミを見てから、都内で、拾ったもの全部記録型のゴミ拾いを始め、「ゴミと人」とまちを念頭に過ごしている。東京藝術大学美術学部先端芸術表現科在籍。アイバンドウ所属。